

九国プレ2010

国語

九州国際大学附属中学校

【注意事項】

- 1 開始合図のチャイムが鳴るまで、この問題用紙の中を見てはいけません。
- 2 開始合図のチャイムが鳴ったら、最初に解答用紙と問題用紙に受験番号・氏名を書きなさい。
- 3 試験時間は50分です。
- 4 解答はすべて、指示にしたがって解答用紙に記入しなさい。
- 5 問題用紙で、印刷がはっきりしないところがあったら、静かに手をあげなさい。
- 6 答案ができあがっても、終了合図のチャイムが鳴るまで静かに着席していなさい。

字数制限のある問題については、句読点なども一字とします。

受験 番号		氏 名	
----------	--	--------	--

□ 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

本屋さんの店先で①カンスツカンスツしてありますと、小さい子どものための本を選ぶ際さい、いまだに字のことが、選択の主な②キジュンキジュンになっ
てらしいのに驚かされます。

パラパラとページをくりながら、「これくらいなら、読めるわね。」とか、「これは、ひらがなばかりだから、だいじょうぶでしょ。」と
か、絵本を手にとって、「こんな本、読むとこないじゃない。」とか、あるいは反対に、「こんなに字がたくさんなの、あなた読めつこないで
しょう。」とか、③こういうせりふを何度耳にすることでしょう。

字が読めるようになるということは、子どもの知的成長の上では**画期的な**かっきてきことですから、五歳から六歳の、字に興味をもち、字をおぼえ

はじめるころの子どもをもつ親にとって、読みものもつさまさまな④ヨウソヨウソのうち、字の問題が**クローズアップ**されるのは、当然かもしれ
ません。

(A)、字の分量だけで、絵本を選ぶというのは、どういふものでしょうか。いくらひらがなばかり書かれていたとしても、内容的に
むずかしい本もあります。「ひとまねござる」のように、かなり文がたくさんでも、内容からいえば、四、五歳の子どもにぴったりのうも
のもあれば、「スーホの白い馬」のように、文の量は少なくとも、描かれている世界は、幼児よりは、もっと年齢の高い子どもに、より強く
訴うったえる例もあります。

ちよつと考えればわかる⑤このようなあやまちを、いまだにおおぜいの人がかえしているのは、本を読むことと、字を読むことが、
その人たちの頭の中で、混同されているからではないかと思えます。

③字を読むことと、本を読むこととは違います。「うちの子は、ひらがなが読めますの。」というとき、その読めるは、ふつう、単に、そ
の子に「あ」という形を見せれば、「ア」という声を出すことを意味しているにすぎません。

そういう子の前に、本をひろげ、字をひとつずつ指でおさえてやると、なるほど、「ア、カ、イ、イ、チ、ゴ……」というふうに、声を出
すでしょう。しかし、それだけでは、ある種の符号を、ある音と結びつけて認識しているというだけで、本を読んだことにはなりません。

「ア、カ、イ、イ、チ、ゴ」が「赤い、イチゴ」だということがわかり、それが何をさしているかを知っていなければ、これらの字（あるいはことば）のもつメッセージは、その子には伝わりません。「赤いイチゴ」ということばが、その子にとって意味のあるものであるためには、その子は、色についても、クダモノについても、ある④テイドの経験と知識をたくわえていなければならぬわけですね。

しかし、知っているということがすべてではありません。もし、その物語が、ひとりの女の子が、病気の母親のために、季節はずれの森に、イチゴをさがしにいった話だとしましょう。（B）、さがしにさがして、やっとひとつぶ、みどりの葉のかけにポツチリ赤い色をのぞかせたイチゴを見つけた！というときの「赤いイチゴ」だったとしましょう。

だとすると、母親の病気に対するⅠや、どうしてもイチゴを見つけないという強いⅡ、ひとりで森の中を歩くⅢ、疲れ、そういう気持ちを味わったうえで、「あった！」というⅣとともに、つややかな赤いひとつぶを心に思い浮かべたとき、はじめて、本の中の「あかいいちご」という六つの文字が、そのメッセージを、フルにその子に伝えた——つまり、その子が本を読んだということになるのではないのでしょうか。

（C）、本を読むためには、ことばが表しているものについての知識だけでなく、ことばが描き出す情景を生き生きと心の中に再現する能力や、主人公の気持ちに同化する能力、つまり⑤ソウゾウ力が必要になってきます。

『サンタクロースの部屋』 松岡 享子

問一 ㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿のカタカナを漢字に直しなさい。

問二 (A) (B) (C) にあてはまる言葉として、適当なものを次の中から選び、それぞれ記号で答えなさい。

ア ですから イ ところで ウ そして エ しかし

問三 ①「こういうせりふを何度耳にすることでしよう」とありますが、人々はなぜこのようにまちがったことを言うかと、筆者は考えられていますか。その理由にあたる部分を、本文中から三十七字で探し、初めの五字を書き抜きなさい。

問四 ②「このようなあやまち」とありますが、どのようなあやまちですか。「く」というあやまち。」につながるように、本文中から十
三字で書き抜きなさい。

問五

I

IV

 にあてはまる言葉の組み合わせとして、最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

- | | | | |
|---------------------|----|-----|----|
| I | II | III | IV |
| ア 願い 心配 不安 喜び | | | |
| イ 心配 願い 喜び 不安 | | | |
| ウ 願い 心配 喜び 不安 | | | |
| エ 心配 願い 不安 喜び | | | |

問六 ③「字を読むことと、本を読むこととは違います」とありますが、「本を読むこと」とは、どういうことですか。それを説明した

次の文の

--

 にあてはまる言葉を、それぞれ本文中から二字で書き抜きなさい。

〈ことばが表しているものについての

A

 だけでなく、情景を心の中に

B

 する能力や、主人公の気持に

C

 する

能力をよく働かせること。〉

問七 本文の内容として **あてはまらない** のものを、次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 親は小さい子どもの本を選ぶとき、字の分量をキジュンにしているらしい。
- イ 五、六歳の子どもをもつ親は、字が読めることを重視する向きがある。
- ウ 字の分量のみによって、絵本のやさしさやむずかしさは決まる。
- エ 本を読むためには、ソウゾウ力を働かせることが重要である。

② 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

〈中学に進んでまもなく、どうしても学校へ足が向かなくなった少女まいは、季節が初夏へと移り変わるひと月あまりを、西の魔女のもとで過ごした。そこで、西の魔女ことママのママ、つまり大好きなおばあちゃんから、まいは魔女の手ほどきを受ける。〉

「何でパパはわたしが学校に行かないのか聞かないんだろう」

「ママは聞きましたか？」

「ううん。そういえばおばあちゃんも聞かなかったね」

「みんな、まいのことを信頼しているからでしょう。まいが行かないと言うからには、きっとそれなりの理由があるからだとみんな思っているんですよ」

まいは布団をあごまで引き寄せた。

「女子の付き合いつて、独特なんだよね」

まいは、ぼそぼそとそう言うのと、ため息をついた。

「クラスの最初にバタバタして幾つかのグループができるんだ。そして休み時間に一緒にトイレに行ったり、好きなスターの話とかするんだけどさ」

「大変ですね」

「その波に乗ったらそんなに大変じゃないんだよ。最初気の合いそうな友達のグループに入るまでがすごく気をつかうけれど。去年まではわたし、すごくうまくやれたのよね。でも、何だか今年は、そういうのが嫌になったんだ」

「グループに入るのですか？」

「うん。グループができるときの心理的なかかけ引きみたいのがね。グループになりたいなって思う子の視線を捉えてにっこりするとか、

③興味もない話題に一生懸命相づちをうつとか、行きたくもないトイレについて行くとか。そういうのが、何となくあさましく卑しく思えてきたんだ」

あさましく…態度に欲が表れていて、みじめなさま

卑しく…つつしみがなく、下品なさま

「分かりますね」

「それで、今年は一切①そういうのやらなかったんだ。そうしたら、去年まで仲が良かった子まで、ほかのグループに入っちゃって、結局一人になっちゃったんだ」

「ほかのグループに入った子は、もう、まいと仲良くできないんですか？」

「できないんだよ」

まいはおばあちゃんの方に向きを変えた。何だかステレオの使い方を教えているような気分だった。

「その子がわたしと話をしたいと思っても、そのグループの子が呼んだらすぐそっちに行かないといけないんだ。つまり、②どつちを大事に思っているかという忠誠心がそこで問われるんだよね」

「難しいんですね」

まごころをつくして、相手に仕える気持ち

「けっこうね。でも、その子のことを恨んでいないよ。だって無理なもの」

淡々と…態度がさっぱりしていて、こだわりのないさま

まいは淡々と醒めた声で言った。醒めた…冷静になった

「そういうグループ③同士では交流はないんですか？」

「敵対するところもあったり、わりとグループ同士が仲がいいところもあったりするんだけど、今度のわたしのクラスは、③珍しいことにお互い友好的になろうとしたらしいんだよね」

「そういうことも可能なんですか？」

「うん、簡単だよ。みんなで、だれか一人を敵に決めればいいんだもの」

「……」

これだけ聞けば十分だった。

おばあちゃんは深いため息をつき、まいはしばらく黙り込んで気持ちを落ち着けた。泣かなかったのは我ながら上出来だと思った。

「それでね、明日までにパパに転校の返事をするって言ったから、ずっと考えていたんだけど……」

「魔女は自分で決めるんですよ。分かっていますね」

おばあちゃんは人さし指でまいのおでこをつついた。

「うん。分かっている。でもちよつと聞いて」

「はいはい」

「たとえ転校してあのクラスからは抜け出せたにしても、いちばん根本的な問題は解決しないんだよ。だから、何か◎素直に喜べないのよね。敵前逃亡とうぼうみたいで、④後ろめたいんだ」

「根本的な問題の解決なんて、まいのような④新米の魔女見習いには無理ですよ。この場合の根本的な問題は、クラス全体の不安ですからね。クラスのみんながそれぞれ不安なんですよ」

「でも、わたしの問題もやっぱりあると思う」

まいは、*も言い切った。

「わたし、やっぱり弱かったと思う。一匹狼おおかみで突つ張る強さを養うか、群れで生きる樂さを選ぶか……」

「その時々で決めたらどうですか。自分が樂に生きられる場所を求めたからといって、後ろめたく思う必要はありませんよ。サボテンは水の中に生える必要はないし、蓮はすの花は空中では咲かない。⑤シロクマがハワイより北極で生きるほうを選んだからといって、だれがシロクマを◎責めますか」

これには説得力があった。でも、まいも負けてはいなかった。もうまいはほとんどおばあちゃんに遠慮えんりよすることはなくなっていた。

「おばあちゃんはいつもわたしに自分で決めるって言うけれど、わたし、何だかいつもおばあちゃんの思う方向にうまく誘導ゆうどうされているよな気がする」

見当ちがいの

⑥おばあちゃんは目を丸くしてあらぬ方向を見つめ、とぼけた顔をした。

『西の魔女が死んだ』 梨木 香歩

問一 ㉔㉕㉖の漢字の読みをひらがなで答えなさい。

問二 ①「そういうの」が指し示す内容を、まとめて表現している語句を本文中から八字で書き抜きなさい。

問三 ②「どっちを大事に思っているかという忠誠心がそこで問われるんだよね」とありますが、このような形をとることでしょうか、おたがいの友情を確かめることができない、根本的な問題を説明した次の文の□にあてはまる言葉を、本文中から二字で書き抜きなさい。

〈クラスのみんながそれぞれ□をかかえているという問題。〉

問四 ③「珍しいことにお互い友好的になろうとしたらいいんだよね」とありますが、今回、だれを、どうすることでグループ同士が友好的になったのですか。本文中の言葉を使って、解答用紙に合わせて答えなさい。

問五 ④「後ろめたい」という言葉を使って、短い文を作りなさい。なお、「後ろめたく」など、形を変えてもかまいません。

問六 □*に入る最も適当な表現を次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア けなげに イ 得意に ウ 真剣に エ 苦しそうに

問七 ⑤「シロクマがハワイより北極で生きるほうを選んだからといって」とありますが、このたとえは、だれがどうすることを選ぶということですか。「シロクマ」「ハワイ」「北極」がたとえられているものを明らかにして説明しなさい。

問八 ――⑥「おばあちゃんは目を丸くしてあらぬ方向を見つめ、とぼけた顔をした」とありますが、このときのおばあちゃんの気持ちと

して最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア まいに自分の考えを否定され軽く怒りを感じながら、その怒りをごまかそうとする気持ち。

イ まいのために心をくだいているにも関わらず、その思いが通じないことにつかりする気持ち。

ウ まいが自分の考えを見ぬくほど成長したことに驚くとともに、その驚きをかくそうとする気持ち。

エ まいの言葉に対抗心を感じ、これ以上まいを刺激しないようにまるくおさめようとする気持ち。

問九 この文章は、前半はおもに「まいのクラスのこと」について、後半は「まいの転校のこと」について描^{えが}かれています。場面が展開する文に、**時間の経過が分かる表現**があります。その一文の最初の九字を書き抜きなさい。

